



## 「STAR ATLAS 21 星の地図館」

林 完次・渡部潤一 著，小学館，4,800 円

解説書

お薦め度  
☆☆☆☆

「星の地図館」というこの本の名前を聞いて、「何の本だろう?」と思う人は多いだろう。そして、表紙を見ると、「星図の本かな」と想像する。ところが、ちょっと違うのである。星図を想像して本を開けると、写真の多さにまず驚く。そして、その写真の美しさにさらに驚く。思わず次から次へとページをめくり、心をときめかしてしまうのは私だけではないはずである。この本の特徴は何といっても、写真の多さ!そして写真の鮮明さ!である。

本書は、星図と天体、太陽系から宇宙へ、全天 88 星座、星空を探る、の 4 章で構成されている。第 1 章の「星図と天体」では、星図を中心に、星座の形、メシエ天体はもちろん、クエーサー、超新星、深宇宙の銀河などバラエティに富んだ天体が数多く写真で紹介されている。各天体は、最近の研究成果をもとにした詳細な解説が記述されているので、最先端の天文学について理解が深まる。第 2 章の「太陽系から宇宙へ」では、探査機によって撮影された各惑星の写真をもとに、解説が記述されている。後半部分は、太陽から順に、より遠くの宇宙が図説されていて、空間的な理解を深めるのに良い。3 章の「全天 88 星座」では、星座絵とともに神話や、みどころが解説されている。4 章の「星空を探る」では双眼鏡、天体望遠鏡による観測、天体写真の撮影などの入門的なことが解説されている。

20 世紀も終わりに近づくと、次々と世界の大望遠鏡が稼働し、大きな成果を表し始めている。これらによって初めて明らかにされた天体の詳細構造をクローズアップし、全体図とその拡大図で説明して

いる部分も多く、目新しい(例: M42 からトラペジウム、そしてトラペジウムの拡大など)。写真は、東京大学木曾観測所やすばる望遠鏡をはじめとして、HST、VLT などによる観測画像なので、見応えは大きい。また、同じ天体でも、波長別に撮影されたものが並べられていたり、ただ見て楽しむというだけにとどまらない工夫がなされていて学習用にも適している。星図はすべてフルカラーのため、星ごとにスペクトル型が色分けされていて、それぞれ一目でわかるようになっている。また、星図として持ち運ぶにはちょっと重すぎると思う人のために、野外星図と、北天、南天星座早見盤を付録とし、TPO に合わせて使用が可能だ。このように、「わかりやすい、使用しやすい」ように考えられた様々な配慮がある。

こうした多くの天体を、最初はただ写真を眺めるだけでも、次第にこの天体はどこにあるのだろうかという興味へと移り変わっていくので、今まで星図は少しとっつきにくいと感じていた初心者も、星図に親しむのにはとても良い入門書となるであろう。また、解説内容の詳しさから、専門的な知識も十分得ることができるので、もともと天文に詳しい人も満足できるであろう。

1 冊じっくり見終わってみると、星図とともに、宇宙空間の広がりを知ることができる。今までとは違った視点で、星図の本を作ろうという著者の意気込みが感じられる 1 冊であった。

田辺玲奈(東京学芸大学)